

令和5年度行政事業レビューシート			(デジタル庁)				
事業名	生成AIの検証環境		担当部局庁	戦略・組織グループ		作成責任者	
事業開始年度	令和5年度	事業終了(予定)年度	終了予定なし	担当課室	調査企画チーム AI担当	森 寛敬参事官	
会計区分	一般会計						
根拠法令(具体的な条項も記載)	-		関係する計画、通知等	<ul style="list-style-type: none"> 新しい資本主義のグランドデザイン及び実行計画2023改訂版(令和5年6月16日閣議決定) 統合イノベーション戦略2023(令和5年6月9日閣議決定) デジタル社会の実現に向けた重点計画(令和5年6月9日閣議決定) 			
政策	情報通信技術等の適正・効率化に関する施策の推進		主要経費	その他の事項経費			
施策	情報システムの整備						
政策体系・評価書URL	https://www.digital.go.jp/policies/assessment/						
事業の目的(5行程度以内)	<ul style="list-style-type: none"> 本実証により、円滑な生成AIの業務利用が促進され、行政運営の効率化、行政サービスの質の向上等につながることを期待される。 						
現状・課題(5行程度以内)	<ul style="list-style-type: none"> 急速なAIの進歩・普及を踏まえ、政府全体のAI戦略の中で、デジタル庁では主に行政での生成AI利用について、検討や環境整備を進めているところ。 現在、行政における生成AIのより一層の有効活用のため、デジタル庁で安全な基盤上で複数の生成AIを扱うことができる実証環境を調達し、各省庁の試行・評価環境としても提供すべく進めている。 ただ、上記の調達における実証結果を活かしつつ、生成AI利用の範囲を広げ、更なるユースケース創出に向けた実証が必要である。 						
事業概要(5行程度以内)	<ul style="list-style-type: none"> 行政での生成AI活用に関して、ユースケースに基づいた実証を行う。 具体的には、更なるユースケース創出を目指し、早期導入でインパクトが期待できる分野の特定・実証、必要に応じたアプリケーション開発等も行う。 						
事業概要URL	-						
実施方法	委託・請負						
補助率等	-						
予算額・執行額(単位:百万円)(インプット)	予算の状況	当初予算(A)	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度要求
		補正予算(B)	-	-	-	-	-
		令和5年度第1次補正予算	/	/	/	-	/
			/	/	/	-	/
			/	/	/	-	/
			/	/	/	-	/
		前年度から繰越し(C)	-	-	-	-	-
		翌年度へ繰越し(D)	-	-	-	-	/
		予備費等(E)	-	-	-	-	/
		計(F)=(A)+(B)+(C)+(D)+(E)	-	-	-	-	-
		執行額(G)	-	-	-	/	/
執行率(%)=(G)/(F)	-	-	-	/	/		
当初予算+補正予算に対する執行額の割合(%)=(G)/[(A)+(B)]	-	-	-	/	/		
令和5・6年度予算内訳(単位:百万円)	歳出予算項目	令和5年度当初予算	令和6年度要求	主な増減理由(・要望額・予備費)			
				-			
	計(A)	-	-				

活動内容① (アクティビティ)		・行政での生成AI活用に関して、ユースケースに基づいた実証を行う。 ・具体的には、更なるユースケース創出を目指し、早期導入でインパクトが期待できる分野の特定・実証、必要に応じたアプリケーション開発等も行う。								
↓										
活動目標及び活動実績 ① (アウトプット)		活動目標	活動指標		単位	令和2年度	令和3年度	令和4年度	5年度 活動見込	6年度 活動見込
		生成AIの業務利用に関するユースケースの創出(行政運営の効率化、行政サービスの質の向上等につながる)	ユースケースの数	活動実績	件	-	-	-	-	-
				当初見込み	件	-	-	-	10	-
↓										
成果目標①-1の 設定理由 (アウトプット からのつながり)		生成AIの業務利用を促進しユースケースを創出するには、生成AIを業務で利用する職員数を増加させることが必要である。職員による効果的な生成AIの利用を促進するため、セミナーを開催することは、生成AIの業務利用の促進に寄与すると考えられる。また、セミナーの参加人数については、セミナー内容をオンライン化して広く視聴可能にすることを検討。								
成果目標及び成果実績 ①-1 (短期アウトカム)		成果目標	定量的な成果指標		単位	令和2年度	令和3年度	令和4年度	目標年度 - 年度	
		生成AIを業務で安全に利用する職員数の増加	生成AIの業務利用に関するセミナーの開催回数	成果実績	件	-	-	-	-	
				目標値	件	-	-	-	-	
				達成度	%	-	-	-	-	
成果実績及び目標値の 根拠として用いた 統計・データ名(出典) /定性的なアウトカムに 関する成果実績										
↓										
成果目標①-2の 設定理由 (短期アウトカム からのつながり)										
成果目標及び成果実績 ①-2 (中期アウトカム)		成果目標	定量的な成果指標		単位	令和2年度	令和3年度	令和4年度	目標年度 - 年度	
				成果実績	-	-	-	-	-	
				目標値	-	-	-	-	-	
				達成度	%	-	-	-	-	
成果実績及び目標値の 根拠として用いた 統計・データ名(出典) /定性的なアウトカムに 関する成果実績										
↓										
成果目標①-3の 設定理由 (長期アウトカム へのつながり)		生成AIの業務利用を促進しユースケースを創出するには、生成AIを業務で利用する職員数を増加させることが必要である。職員による効果的な生成AIの利用を促進するため、セミナーを開催することは、生成AIの業務利用の促進に寄与すると考えられる。また、セミナーの参加人数については、セミナー内容をオンライン化して広く視聴可能にすることを検討。								
成果目標及び成果実績 ①-3 (長期アウトカム)		成果目標	定量的な成果指標		単位	令和2年度	令和3年度	令和4年度	目標最終年度 - 年度	
		生成AIを業務で安全に利用する職員数の増加	生成AIの業務利用に関するセミナーの開催回数	成果実績	件	-	-	-	-	
				目標値	件	-	-	-	-	
				達成度	%	-	-	-	-	
成果実績及び目標値の 根拠として用いた 統計・データ名(出典) /定性的なアウトカムに 関する成果実績										
アウトカム設定について の説明		アクティビティ①について定性的なアウトカムを設定している理由								
		アクティビティ①についてアウトカムが複数設定できない理由								

